

2020.3
Ehime/Ozu



協力隊員・OB

大洲市地域おこし協力隊

Ozu Chiikiokoshi Kyoryokutai

もくじ／Contents

- P01 大洲市／Ozucity
- P02 地域おこし協力隊／Chiikiokoshikyoryokutai
- P03-04 小泉 信二／Shinji Koizumi
- P05-06 井上 陽祐／Yosuke Inoue
- P07-08 中野 芳将／Yoshimasa Nakano





肱川と市中心部

大洲市 / Ozucity

市の中心を流れる肱川は、肥沃な土壌を生み、先人たちは、そこに「橋」を架け、地域や人々のつながりを見い出し、文化や歴史、産業の発展をもたらしました。

そこに風情と賑わいが生まれ、そして感動、幻想、ノスタルジックな町並みが重なり、快適な空間が集結しています。

市内は、山・海・川を含む自然豊かな地域で形成されており、城下町である肱南地区はかつて木蠟や製糸業で栄えました。現在もその雰囲気を感じる事ができ、「伊予の小京都」と呼ばれています。また、周辺部には美しい里山など未来に残すべき地域資源が溢れています。

現在、地方では少子高齢化と人口減少により、地域力の維持が困難となりつつあります。そうした状況の中、大洲市では基幹産業となる農林水産業への支援や観光資源を生かしたまちづくりとインバウンド受入れ環境整備、住民が笑顔で楽しく過ごせる健康づくりや教育施策を展開し、市民一人ひとりが「きらめいて」地域全体が「きらめきまちなち」になるよう、将来に夢と誇りを持つ活力あるまちづくりをめざしていきます。

河辺地域—ふるさとの宿



地域の中央には河辺川が流れ、周辺は山林に囲まれている。川魚（あまご・いわな）の養殖が盛ん。

肱川地域—鹿野川ダム



鹿野川湖を中心に県立自然公園に指定され、水と緑に囲まれた自然豊かな環境で農林業が盛ん。

長浜地域—長浜大橋(赤橋)



市内で唯一海に面し、山間部では柑橘類の生産や棚田が保全され、中心部には昔ながらの商店街が残る。

大洲地域—肱南地区



中央部を清流「肱川」が流れ、農林業で栄える。大洲城や臥龍山荘、古い町並みが現存している。

地域おこし協力隊

― 地域おこし協力隊とは

地域力の維持・強化を図るために人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、域外の人材を受け入れ、各種地域協力活動に従事してもらいながら、受け入れ地域への定住・定着を図る制度です。

― 協力隊になるには？

協力隊になりたい方は、大洲市のホームページで募集状況を確認してください。
 自身が取り組みたい活動とマッチングした場合は、応募をし、選考（書類・面接）の結果、採用が決定します。
 人生の大きな決断となりますので、事前に市役所担当窓口で連絡し、現地訪問をするなど十分に確認をすることも重要です。



協力隊活動内容

地域行事やイベントの応援、伝統芸能や祭りの復活、観光振興、地場産品の開発・販売・プロモーション、空き店舗活用などの商店街活性化、農作業支援

Instagram



Facebook



SNSで活動状況を発信しています
 隊員の日々の取り組みをご覧ください

地域おこし協力隊が大洲市でも活躍

― 協力隊の導入

大洲市では、協力隊制度を導入し、地域課題の解決や地域を元気にする活動、資源を価値に変える取り組みを、協力隊・地域・行政が一体となって行っています。

今までに七名の協力隊が大洲市で活動を行い、農業や観光振興、地域団



体と連携した地域おこし、特産品の開発などに取り組みました。
 首都圏等から移り住み、何も知らない地域での生活や生活は大変だと思えます。今まで活動をしてきた協力隊、現在活動をしている協力隊、それぞれの活動が活動地域を中心に大洲市に新しい風を吹かせてくれていきます。



— 地域おこしの原点に取組む
地域団体での活動と地域拠点の運営支援

隊員profile

小泉 信二/Shinji Koizumi

(転入元：香川県、40代)

活動開始 H29.4着任/R2.3退任
活動地域 河辺地域
受入団体 大洲市河辺支所地域振興課
河辺の未来を考える会
活動内容 河辺の未来を考える会企画・運営
ふるさとの宿運営補助
地域活性化活動全般
退任後 ふるさとの宿支配人として勤務



— 協力隊になったきっかけ

高校を卒業するまで大洲市で過ごし、大学進学後に大洲市を離れました。それから二十三年、帰省する度に故郷が元気をなくしているように感じ、「故郷を元気にしたい」、「地域活性化のお手伝いがしたい」という思いが強くなっていました。

そんな時、総務省が取り組む地域おこし協力隊という制度を知り、大洲市が協力隊を募集していることを知りました。そして、「これは飛び込まなきゃいけないチャンスだっ！」と思い、深く悩むこともなく、わりと後先考えることもなく応募しました。

その後、協力隊に就任し「オレ、大丈夫なのか？」という不安が一瞬アタマを過りましたが、河辺町に住み、地域の人たちと交流することによって不安は無くなりました。

四十歳を過ぎた今では、深く思慮することもなく、後先考えず協力隊に応募した三年前の自分を褒めてあげたいです。

— 河辺の魅力

皆さんは河辺地域を訪れたことがありますか？ 私は地域おこし協力隊に応募するにあたり平成二十八年十二月に初めて河辺町を訪問しました。

その時の感想は「幻想的だ」、「日本の山里の原風景だ」というものでした。

河辺川に沿って谷間を進むこと約十五分、突然視界が開け町並みが広がった時の感動に似た驚きは今でも忘れることができません。

豊かな自然、日本では珍しい屋根付き橋、寒暖差の大きい地域で育った美味しい作物、そして何より私を温かく迎えてくれた地域の人たちの人間性が何よりの魅力だと思います。



―活動内容

ミッション(活動内容)は、地域おこし団体『河辺の未来を考える会』での企画運営、河辺ふるさとの宿の運営補助でしたが、最初のミッションは河辺地域の全戸訪問でした。最初は「イヤだ。やりたくない。」という気持ちがありました。全戸訪問のおかげで、河辺のことを知ることができ、地域の方々と色々なお話をすることができました。河辺の未来を考える会では、国の補助金を活用したため、事業の種類が多岐に及びました。「これは本当に協力隊の仕事なのか？」と思うこともありましたが、会の皆さんと協力して毎年六十件を超える事業ができたことは、自分にとって素晴らしい経験となりました。特に大洲ええモンセレクションに認定された「あまごめしの素」を開発・販売できたことは、今後に繋がる成果だと思えます。そして、ミッションとは別に「勝手にプロジェクト」という活動も行いました。



河辺ふるさとの宿
かつての小学校が蘇った風情ある旅館。
河辺地域の中核拠点でもあり、小泉隊員が支配人として勤務する施設となる。

「春の河辺路・花街道」プロジェクトや塾講師の経験を活かし、学習補助教室(無料)を開講しました。このプロジェクトは子ども達の人数が少なくないこともあり、半年で終了しましたが…。その他、クリスマスイルミネーションの飾り付けや、地域食材を使った飲食イベントなどを開催しましたが、どのプロジェクトも地域の方々の協力がなければ実現不可能なものばかりでした。

―退任後の取組み

任期も残り半年となり、「就活しなきゃ」と感じ始めた頃、河辺ふるさとの宿で支配人の公募がされることを知りました。「これはチャンスだっ!」と思って応募し、支配人として採用されることとなりました。

宿をより活性化させるために、観光客を呼び込み、地域の方にもっと密着したサービスを提供することが挙げられます。河辺の自然、文化、食材を生かしたグリーン・ツーリズムを提供し、子どもはもちろん、世代に関係なく楽しめるプランの開発を目指していきます。

三年前、温かく受け入れ、見守っていただいた地域の皆さんに恩返しをする意味でも、スタッフとチカラを合わせ、河辺ふるさとの宿を運営していきたいと思っています。

最後になりましたが、三年間、応援・ご協力いただいた皆様、サポートしてくれた市役所職員の方、本当にありがとうございます。今後も「河辺」にいますので、引き続きよろしくお願ひします。

河辺の未来を考える会 会長 梅木 健一 さん



―協力隊が入って変わったこと

地元の人では感じられなかった河辺の魅力を町内外に広く情報発信してもらい、河辺に興味を持ち訪れる人が増えました。

―協力隊と活動して感じたこと

河辺地区の活性化に向けて一緒に立案したことが、協力隊活動のおかげで実際に形になり動きだした。ありがとうございます。

— 観光を通して地域資源を
未来につなげる
古民家の活用とインバウンド推進

隊員profile

井上 陽祐 / Yosuke Inoue

(転入元：東京都、30代)

活動時期 H29.5着任/R2.3退任
活動地域 市内全域（主に肱南地区）
受入団体 大洲市観光まちづくり課
活動内容 インバウンド受入環境整備
古民家再生利活用
DMO設立及び運営
退任後 (一社)キタ・マネジメント勤務
(株)KITA代表として事業展開



— 協力隊になったきっかけ

東京でのキャリアに行き詰まりを感じていたこと、東京で結婚して子育てをするイメージがわかかなかったことからリターンを決意しました。地域おこし協力隊として、過去のキャリアを生かし、事業をしたいと思いい応募をしました。

— 大洲に帰って感じたこと

大洲は、五十から百五十年前は、かなり世界に精通した地方だったということ。大洲出身の豪商たちは大洲ならではの製品（木蠟や生糸、木材など）を海外に運んで外貨を稼ぎ、それを大洲に持ち帰って町を潤していました。その名残が臥龍山荘や肱南エリアの多くの町家に残っています。しかし今、これらの町家が危機に直面しています。多くの町家の所有者が地域外に引っ越し、手が入られないままの状態です。古い家は、手を入れないでいると、雨漏りなどの損傷が起こりやすくなります。



— 肱南地区の町家

城下町の中心地であった肱南地区には、貴重な町家が多く現存している。

人が定期的に入り、掃除をすることで肱南エリアの歴史ある町家や景観が保たれます。また、こうした古い家は「古民家」と呼ばれ、他地域においても訪日外国人を受け入れる施設としてホテルや飲食店などに多数活用されています。日本全体で見ても訪日外国人向けの古民家活用は盛んに行われていて、私自身もこの「古民家活用」を大洲にもたราบすべく、まずは大洲で自分ができることとしてはじめました。

活動内容

協力隊になり、まず取り組んだのは、「YATUGI」という清掃及び古民家保全活動です。着任後、肱南エリアの町家を清掃や、障子の張り替えなどを行ってきました。肱南エリアの空き家の管理と清掃を行うと同時に、活用への道を開く活動を行ってきました。

また、民間企業での経験を活かし、地域DMOの設立に携わりました。設立後は、「一般社団法人キタ・マネジメント」の事業課長として、事業計画立案や運営を担当してきました。

大洲には、その歴史や文化を内包した魅力的な資源が現存しており、それを大切に守ってきた人がいます。しかし、隊員として活動する中で、空き家化が進み、町並みが失われているという現状を知りました。何とかしてもこの資源を未来に残したいと所有者に掛け合い、地域の仲間と清掃を始めたのが、隊員一年目のことです。

そして、地域DMO設立後は、金融機関や行政などと連携しながら町家を宿泊やショップに改修して事業者に貸し出す仕組み作りを行いました。今後五年間で約三十棟の町家を改修して活用する予定です。



活動風景

YATUGIでの清掃活動や古民家を宿やショップに改装。改装前には地鎮祭を実施した。

「しろまちゲストハウス」 三瀬さん



—協力隊が入って変わったこと

課題解決の実行者として、地域の課題に正面から向き合い常に最前線で奮闘されてきました。その成果として、様々な理由で失われていく大洲の魅力ある古民家を保存・活用していく未来が開けてきていると感じています。

—協力隊と活動して感じたこと

地域を想う気持ちも大事ですが、将来にわたって継続し、発展していくためにはビジネスの視点も重要。ビジネスの視点を持って大洲の魅力ある地域資源を活かそうとする井上隊員はこの地域に欠けていたピース

退任後の取組み

株式会社KIITAの代表として、引き続き、古民家の保全と活用に取り組み、地域資源を貨幣資源へ転換する仕組みづくりと地域の活性に取り組みでいきます。

そして、大洲をより住みやすく、より若者が帰ってきたいくなる町となるように先鞭をつけていこうと思います。

また、大洲をどんどん首都圏や海外に発信していく事業にも力を入れていきたいのですが、今までは大洲の中の活動が多かったのですが、大洲ー東京、大洲ー海外をつないでこそ、自分の真価が発揮出ると考えてます。

前職を生かした新たな挑戦

経験と技術を生かした特産品開発と
主要産品の維持・確保

隊員profile

中野 芳将 / Yoshimasa Nakano

(転入元：松山市、40代)

活動開始 H30.4着任／現役隊員

活動地域 肱川地域

受入団体 大洲市肱川支所地域振興課
肱川プロジェクト

活動内容 特産品開発・観光振興
主要産品の栽培・生産

協力隊になったきっかけ

地域おこし協力隊の「中野芳将」です。平成三十年四月から協力隊として肱川町で活動をしています。

故郷を離れてから二十年間、ずっと肱川町の事、親の事が心の片隅にありました。名古屋市で色々な経験と修業をし、松山市で自分の夢だった飲食店を開業しました。家族もでき、これからの人生を考えていた時に、現役協力隊に出会い、そして、地域おこし協力隊の存在を知りました。

ちょうど、その頃、自分で材料から料理を作りたい願望が強くなり、子供との時間をもっと増やしたいと思うなど、「丁寧な暮らし」について模索している時期でした。自分のやりたいことと、できること、苦手なこととははっきりとみてきた時期でもありました。

故郷「肱川町」で「丁寧な暮らし」を実現できないか？むしろ肱川町のほうができるんじゃないか？

お店がちょうど十周年、僕自身四十歳になり、動き出すなら今しかないと思い、地元肱川町へのUターンを決心し、そして、肱川町の「地域おこし協力隊」になりました。



Federico (フェデリコ)

中野隊員が松山市で経営していたイタリアンレストラン。特に女性客からの人気・支持が高く、ランチタイムは常に満席。肱川町で協力隊になることから、10年の歴史に幕を閉じる。

― 活動内容

主に、肱川町の地域おこし団体「肱川プロジェクト」のメンバーとして活動しています。ミッションとして、特産品開発と観光振興、地域活性化活動に取り組んでいます。

まず、特産品開発では、「何か新しい手土産を作ってほしい。地元の特産品を生かして新しいものを」という願いを何とか形にすべく日々奮闘しています。前職が料理人というということもあり、食べ物で特産品開発をとお声がけいただくことが多いです。

現在は、トマトチーズケーキの開発を行っています。肱川町には、開発に必要なトマト・乳牛・平飼の地鶏の卵・ゆず・椎茸・フルーツなど多くの地域産品が栽培・生産されています。上手く取り入れて美味しいスイーツに仕上げ、新しい手土産を作っていきたいです。

観光振興や地域活性化活動では、ジャンボかるたを製作し、地元小学生との

かるた大会の開催や、野鳥の巣箱かけイベントへの参加、幼稚園へのクリスマスマスプレゼント贈呈、活動資金確保のための県道の草刈り、鹿鳴園ロッジを活用したお泊り会、地元クローケー大会やドラゴンボート大会の運営スタッフ、松山での肱川会運営スタッフなど多様なイベントが目白押しでした。



―― 肱川プロジェクトでの活動 ――
特産品開発やイベントの運営補助など肱川地域の魅力発信に取り組む。
肱川のモノで作り、肱川をミセル活動を行っている。

― 農林業で生きていく

協力隊として残り一年となりました。四月からは、家族が肱川町に移住し、やっとスタートラインに立てる気持ちです。この二年間活動をするにあたって、「協力隊をしに来た人」ではなく「協力隊制度を活用している肱川町民」ということを意識するようにしています。そう意識することで、活動と生活のバランスがとれ、この制度の強みが出せると感じています。この部分の理解が地域や行政、隊員本人にないと、うまくいかないと思っています。

最後の年、イベント出店や営業活動を中心にとにかくできることはやってみようと思っています。情報発信をするためのネット環境整備や小冊子の作成、地域資源を生かした自伐型林業、薪の生産や農作物の栽培など、自身の経験と技術を生かし、もっと外とつながりを持って肱川町の魅力を発信していきたいと思っています。

書ききれないし、文章では伝えきれないので活動に興味ある方は気軽に話しかけてください。



―― 肱川の産品を未来へ ――

農林業で生きていくために、肱川の産品である椎茸の生産に取り組む。良質な椎茸の研究を行い、地域の主要産品の維持・確保を図る。



一般社団法人 キタ・マネジメント
(井上陽祐隊員・退任後勤務地)



Concept

地域の文化を未来に繋ぐ

地域固有の歴史、文化、自然などの資源を保全しながら
様々な民間事業所等と新たな価値を付与して活用し、地域経済の発展に寄与することで、後世に価値ある地域の文化を残していきます。

- 所在地 大洲市大洲649番地I
- HP-URL <http://kita-m.com>

河辺ふるさとの宿
(小泉信二隊員・退任後勤務地)



Concept

何もない場所だから感じる
ほんとうの満ち足りた時間

春は生命の息吹を感じ、夏は川のせせらぎで涼をとり、秋は山の恵みを味わいながら、冬は心温かに夢をみる。
何もないはずの場所は、都会にないもので溢れています。
この場所に来なければ感じられない満ち足りた時間を河辺ふるさとの宿で、心ゆくまでお楽しみください。

- 所在地 大洲市河辺町三嶋134
- HP-URL <https://www.kawabe-furusato.com/>

交通アクセス



飛行機 / 羽田空港(東京)～松山空港 1時間20分 伊丹空港(大阪)～松山空港 50分
J R ・特急 / 松山～大洲 35分 高松～大洲 3時間 岡山～大洲3時間30分
車 / 松山～大洲 1時間 高松～大洲 2時間30分 岡山～大洲3時間10分

お問合せ先

〒795-8601愛媛県大洲市大洲690番地の1
大洲市役所復興支援課

TEL:0893-57-9989 / MAIL:fukkoushienka@city.ozu.ehime.jp